

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 12 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2009～2013

課題番号：21320012

研究課題名(和文) 戦国楚簡と先秦思想史に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Studies in Pre-Qin Intellectual History as Reflected in Bamboo Manuscripts from the Warring States Period

研究代表者

湯浅 邦弘 (YUASA, Kunihiro)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：30182661

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,300,000円、(間接経費) 3,990,000円

研究成果の概要(和文)：中国で近年発見された出土資料(竹簡)を読解し、これまで知られることのなかった中国古代思想の実態を解明した。国内での研究会合を重ねるとともに、たびたび中国に渡航し、竹簡を所蔵する博物館等で資料の実見調査を精力的に進めた。その結果、秦の始皇帝が文字統一を行う前の古代文字を少しずつ解明できるようになり、また、中国では、古くから様々な文献が執筆され、蓄積されていたという状況が明らかになった。

研究成果の概要(英文)：By analyzing materials (bamboo strips) that have been excavated in the People's Republic of China in recent years, the world of thought of ancient China now presents itself in a completely different light.

In addition to regularly held conferences dedicated to the subject within Japan, we have undertaken frequent excursions to the museums and other institutions that house bamboo manuscripts and not failed to examine the relevant materials personally.

As a result, we have gained a deeper understanding of regional Chinese scripts as they existed prior to the standardization of the writing system under the first Qin emperor, and it has become evident that the diversity of textual production in ancient China, as well as the variety of texts included in one and the same collection was much greater than previously imagined.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：中国哲学 古文字学 出土資料 上博楚簡 清華大学竹簡

1. 研究開始当初の背景

新出土文献が中国古代思想史の研究分野に大きな影響を与えるようになったのは、1970年代以降であろう。例えば、銀雀山漢墓竹簡、馬王堆漢墓帛書、睡虎地秦墓竹簡などが、兵学・道家・法家などの思想史研究に重要な手がかりを与えた。

ただ、それらにも増して、思想史研究に劇的な事態をもたらしているのが、1990年代に入って発見された戦国楚簡、すなわち郭店楚墓竹簡(郭店楚簡)、および上海博物館蔵戦国楚竹書(上博楚簡)である。郭店楚簡は、大量の儒家系古逸文献および『老子』の三種写本などを含み、また、上博楚簡も、これまで知られることのなかった、およそ100種近くの古代文献を含むものであった。戦国時代の楚文字で竹簡に筆写されたこれらの出土文献は、ただちに世界的な注目を集めた。中国・台湾・アメリカなどで次々に国際会議が開催されるとともに、インターネット上にほぼ毎日新しい論文が掲載されるようになった。中国古代思想史研究に全く新たな局面が訪れたと言ってよい。

そこで、申請者は、中国思想史と中国古文字学の専門家からなる共同研究グループを発足させ、これら新出土文献の解読を通じた先秦思想史の研究を推進することとした。

2. 研究の目的

本研究は、現在、中国古代思想史の分野で世界的に注目を集めている戦国楚簡の解読を進め、中国古代思想史、特に先秦思想史の形成と展開を明らかにすることを目的とする。

具体的には、現在順次刊行が進められている『上海博物館蔵戦国楚竹書』(馬承源主編、上海古籍出版社)に基づいて、それぞれの新出土文献を、思想史・文字学の専門家からなる共同研究によって解読し、また、中国・台湾などで活発な活動を続けている出土文献関係の学会・研究会と学术交流を進め、さらには、出土文献の実見調査を行って、上記の解読作業を補完する。最終的には、これらの研究成果を踏まえて、従来の通説に大幅な修正を加えた、新しい中国古代思想史の記述を目指す。

3. 研究の方法

上博楚簡の中でこれまで刊行の情報がありながらまだ公開されていない文献、特に孔子の弟子門人に関わる文献、『論語』『礼記』『尚書』などの形成過程に関わる文献、楚の現地性の文献、道家、兵家、墨家に関わる文献などを総合的に解析するよう努める。そして、これまでの通説を修正した先秦思想史を新たに記述する。

そのための方法として、以下の4点をあげる。(1)国内における研究会合の定期的開催。主として代表者の勤務地である大阪で開催。(2)出土竹簡の現地調査。ほぼ年一回のペースで中国に渡航し、竹簡の実見調査を行う。(3)国内外での研究成果発表。海外の研究者とも友好を深め、情報交換を行う。(4)インターネット上における研究成果の公開。本研究グループでは、「中国出土文献研究会」ホームページを立ち上げて、研究成果・情報を即時的に公開し、現在に至っている。

4. 研究成果

(1) 研究論著の刊行

第一の成果としてあげられるのは、多数の論著の刊行である。五年間の研究成果をまとめるものとして、研究代表者の湯浅と連携研究者の福田は、それぞれ中国語による学術書を台湾の出版社から刊行した。これは、本研究の成果が、広く中国語圏に認知されることを目的として企画されたものである。この両書に含まれている論考と、メンバーによる個別の学術論文とを合わせると、約50本の論考を量産したことになり、この共同研究がいかに生産的な研究を継続していたかが分かるであろう。

また、代表者の湯浅は、こうした最先端の学術成果を広く一般社会にも分かりやすく伝える努力を続け、その成果として、『論語』(中公新書、2012年)、『名言で読み解く中国の思想家』(編著、ミネルヴァ書房、2012年)、『中国古典に探る座右の銘』(角川SSC新書、2010年)、『概説中国思想史』(編著、ミネルヴァ書房、2010年)、『諸子百家』(中公新書、2009年)などを次々に刊行した。これらの中にも、本研究の成果の一端が平易に紹介されている。こうした点については、中国からも高い評価を受け、2013年12月、北京大学日本校友会編『今こそ伝える日中100人』(白帝社)の中で、「戦国楚簡研究の日本人パイオニア」として湯浅の研究が紹介された。

(2) 現地調査と国際学术交流

この共同研究の第二の特色は、海外での活動である。当初から研究対象としていた上博楚簡については所蔵元の上海博物館に期間中3回赴き、実見調査を行った。また、期間中に新たに入手の報が伝えられた清華大学竹簡、北京大学竹簡、岳麓秦簡についても、急遽研究対象に追加し、それぞれの所蔵元である清華大学、北京大学、湖南大学岳麓書院に赴き、竹簡の実見調査を行った。特に、清華大学竹簡については、我々の研究グループが海外の研究者としては初めて実見を許された。さらに、上博楚簡との関係が注目されている香港中文大学所蔵簡牘についても、2013年に香港に赴き、実

見調査を行った。こうした現地調査が竹簡の読解と研究論文の執筆を力強く後押しした。

その他、海外研究機関との学术交流・情報交換として、2009年に復旦大学の出土文献与古文字研究中心を訪問し、2011年には新たな戦国簡を入手したとされる浙江大学を訪問し、2012年には、出土竹簡研究の拠点である武漢大学簡帛研究中心を訪問した。

一方、国際学会での研究発表も数多く、下記の通り、湯浅・竹田を中心として、9件の学会発表を行った。また、これとは別に湯浅・福田・竹田は、それぞれ中国・台湾の大学において招待講演も行っている。こうした学术交流が、上記の中国語による学術書の刊行につながったと言ってもよい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 27 件)

湯浅邦弘「上博楚簡『舉治王天下』の古聖王伝承」(湯浅邦弘、『中国研究集刊』第56号、査読有り、43-65頁、2013年)

湯浅邦弘「上博楚簡『顔淵問於孔子』と儒家系文献形成史」(『中国研究集刊』第55号、査読有り、40-53頁、2012年)

湯浅邦弘「興軍之時—關於銀雀山漢墓竹簡《起師》」(武漢大学簡帛研究中心『簡帛』第7輯、査読有り、219-233頁、上海古籍出版社、2012年)

湯浅邦弘「漢代における『論語』の伝播」(『国語教育論叢』第21号、査読有り、129-143頁、2012年)

湯浅邦弘「太姒の夢と文王の訓戒—清華簡『程寤』考」(『中国研究集刊』第53号、査読有り、183-198頁、2011年)

湯浅邦弘「銀雀山漢墓竹簡『論政論兵之類』について」(『中国研究集刊』第52号、査読有り、23-41頁、2011年)

湯浅邦弘「教戒書としての『君人者何必安哉』」(『竹簡が語る古代中国思想(三) 上博楚簡研究』第五章、汲古書院・汲古選書、185-202頁、2010年)

湯浅邦弘「清華大学竹簡と先秦思想史研究」(湯浅邦弘、『中国研究集刊』第50号、査読有り、280-288頁、2010年)

福田哲之「浙江大学蔵戦国楚簡の真偽問題」(『中国研究集刊』第55号、査読有り、54~79頁、2012年)

福田哲之「清華簡『尹誥』の思想史的

意義」(『中国研究集刊』第53号、査読有り、157~182頁、2011年)

福田哲之「『凡物流形』甲乙本の系譜関係—楚地におけるテキスト書写の実態とその背景—」(『出土資料と漢字文化圏』、汲古書院、査読無し、97~120頁、2011年)

福田哲之「『天子建州』甲乙本の系譜関係」(『中国出土文献研究2010』、査読有り、42~60頁、2011年)

福田哲之「上海博物館蔵戦国楚竹書の特異性—『君人者何必安哉(甲本・乙本)』を中心に—」(『中国研究集刊』第50号、査読有り、228~247頁、2010年)

福田哲之「上博楚簡『武王踐阼』簡6・簡8簡首缺字説」(『中国研究集刊』第48号、査読有り、69~74頁、2009年)

竹田健二「清華簡『楚居』の劃線・墨線と竹簡の配列」(『中国研究集刊』第56号、査読有り、65~81頁、2013年)

竹田健二「清華簡『蒼夜』の文献的性格」(『中国研究集刊』第53号、査読有り、199-212頁、2011年)

竹田健二「(翻訳)『北京大学出土文献研究所工作簡報』総第一期」(『中国研究集刊』第52号、査読有り、79-91頁、2011年)

[学会発表](計 12 件)

(1) 国内

湯浅邦弘「先秦兵学の展開」(第四回日中学者中国古代史論壇「中国新出資料学の展開」(分科会)、2012年5月25日、日本教育会館)

竹田健二「上博楚簡『李頌』の文献的性格」(第四回日中学者中国古代史論壇「中国新出資料学の展開」(分科会)、2012年5月25日、日本教育会館)

福田哲之「漢簡『蒼頡篇』研究」(第四回日中学者中国古代史論壇「中国新出資料学の展開」(分科会)、2012年5月25日、日本教育会館)

(2) 海外

湯浅邦弘「上博楚簡『舉治王天下』の堯舜禹傳説」(先秦兩漢出土文獻與學術新視野國際研討會、2013年6月25・26日、台湾大学)

竹田健二「清華簡《楚居》の劃線・墨線與竹簡の排序問題」(先秦兩漢出土文獻與學術新視野國際研討會、2013年6月25・26日、台湾大学)

湯浅邦弘「岳麓秦簡『占夢書』研究」(第五回東アジア文化交渉学会、2013年5月10~11日、香港城市大学)

竹田健二「清華簡『楚居』の劃線・墨線と竹簡の排列」(第五回東アジア文

化交渉学会、2013年5月10～11日、香港城市大学)

竹田健二「有關戰國楚簡背面劃線、墨線與竹簡的排序問題」(“簡牘與早期中國”學術研討會、2012年10月26日～28日、北京大学)

湯浅邦弘「漢代における『論語』の伝播」(第四回東アジア文化交渉学会、2012年5月11日～13日、韓国・高麗大学)

湯浅邦弘「上博楚簡《顔淵問於孔子》與儒家系統文獻形成史」(出土文獻研究方法國際學術研討會、2011年11月26日～27日、台湾大学)

竹田健二「清華大学蔵戦国竹簡『耆夜』初探」(第三回東アジア文化交渉学会、2011年5月7日～9日、華中師範大学)

湯浅邦弘「銀雀山漢墓竹簡《起師》之兵学思想」(第三回東アジア文化交渉学会、2011年5月7日～9日、華中師範大学)

〔図書〕(計 2 件)

福田哲之『戦国秦漢簡牘叢考』(台湾・花木蘭文化出版社、全 207 頁、2013 年)

湯浅邦弘『中國出土文獻研究 上博楚簡與銀雀山漢簡』(台湾・花木蘭文化出版社、全 157 頁、2012 年)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

「中国出土文献研究会」ホームページ

<http://www.shutudo.org/>

- ・共同研究
- ・海外学術調査
- ・国際学会
- ・新資料紹介

- ・活動履歴
- ・研究成果一覧
- ・書誌情報用語解説
- ・関係年表・地図ほか

6. 研究組織

(1) 研究代表者

湯浅邦弘 (YUASA KUNIHIRO)
大阪大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：30182661

(2) 研究分担者

竹田健二 (TAKEDA KENJI)
島根大学・教育学部・教授
研究者番号：10197303

(3) 連携研究者

福田哲之 (FUKUDA TETSUYUKI)
島根大学・教育学部・教授
研究者番号：10208960